

目白大学

目白大学は、東京都新宿区に本部を置く私立大学である（1994年に設置）。設置者は学校法人目白学園であり、前身となる研心学園の創設は1923年である。

岩槻キャンパスには、保健医療学部（理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科）と看護学部（看護学科）が配置されており、この他に人間学部・社会学部・経営学部・外国



語学部がある。岩槻キャンパスの学生数は、理学療法学科 419 名、作業療法学科 232 名、言語聴覚学科 170 名、看護学科 402 名の計 1,223 名であり（2011年5月現在）、職員とあわせると 1,500 名程度が在籍している。

保健医療学部では、近年における医学の目覚ましい進歩の中、専門教育である理学療法学、作業療法学・言語聴覚学に関する知識と技術に関する教育と研究を行っている。医学関係の教育に不可欠な臨床指導に重点をおくことにより、知識・技術・態度において優れた人材の育成を目指している。

看護学部は、保健医療学部に次ぐ医療系学部として、2006年4月に誕生した。本学の建学の精神である「主・師・親」に基づき、看護に必要な専門的知識と技術を身につけ、実践力のある看護師、保健師の養成を目指している。また、変革する社会に対応しうる人間性豊かな感性を兼ねそろえた人材を育成している。

所在地：埼玉県さいたま市岩槻区浮谷 320

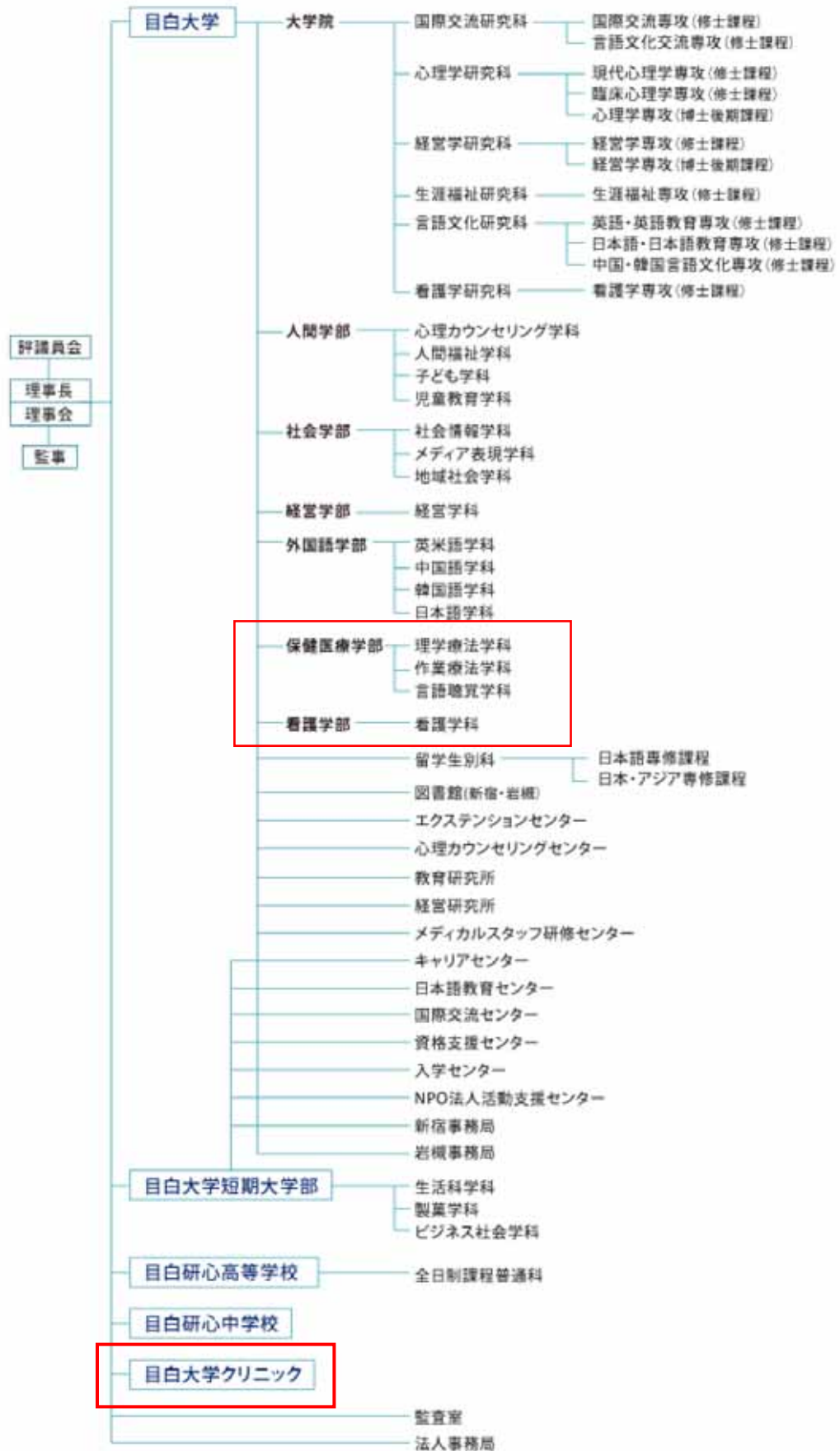
アクセス：● 東京メトロ南北線（埼玉高速鉄道線直通）

「浦和美園駅」からバスで約 15 分

● 東武野田線 「岩槻駅」からバスで約 12 分

● JR 武蔵野線 「東川口駅」からバスで約 23 分

学校法人目白学園 組織図



目白大学クリニック

医療系キャンパスとしてますます発展する目白大学にあって、2008年4月のオープン以来、当初の予想を超えて大きく発展、今では全国各地から毎日100名近い患者が来院・診療を受ける規模になっている。

開 業：2008年4月

診療科目：耳鼻咽喉科、リハビリテーション科

特 徴：最新の聴覚機能測定機器を用いて、高度のレベルで診断を実施、一般診療に加えて、めまい・耳鳴り・難聴・睡眠時無呼吸などの診断・治療へも積極的に取り組む。耳鼻科医師との密接な連携・指導のもと、保険診療で言語聴覚療法を実施。高度な知識と豊富な臨床経験を持つ言語聴覚士が、言語聴覚リハビリテーションを必要とする方々に、年齢・障害領域を問わずに幅広く対応。

所在地：埼玉県さいたま市岩槻区浮谷320 目白大学岩槻キャンパス内(5号館1階)

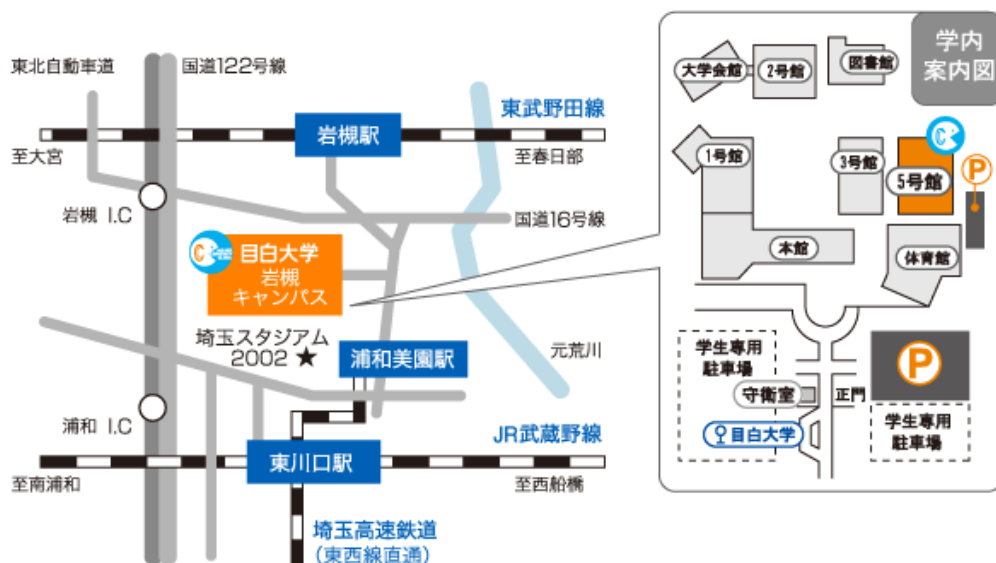


アクセス：● 東京メトロ南北線（埼玉高速鉄道線直通）

「浦和美園駅」からバスで約15分

● 東武野田線 「岩槻駅」からバスで約12分

● JR 武蔵野線 「東川口駅」からバスで約23分



言語聴覚リハビリテーションの内容

聴覚障害 (対象:小児から高齢者まで)

- 評価** 聴力やことばの聞き取り能力の検査、中耳機能の検査、補聴器の適合評価、言語発達検査、見聴検査
- 訓練・指導** 補聴器の選択と調整、耳型採取、補聴器装着指導、補聴に関する相談、言語・コミュニケーション指導(補聴器あるいは人工内耳装用児を中心に)
- 家族支援** 新生児スクリーニング・リファーマスターへの支援を含む

失語・高次脳機能障害 (対象:小児から高齢者まで)

- 評価** 言語機能検査各種、知的機能検査各種、高次脳機能検査各種
- 訓練・指導** 失語症や注意、記憶、実行機能等の高次脳機能障害に対する機能改善訓練、認知症によるコミュニケーション障害に対する機能改善訓練、コミュニケーション能力向上訓練、拡大代替手段獲得・使用訓練
- 家族支援** 家庭における援助法や接し方などに関する家族指導、関連職種への支援

言語発達障害 (対象:小児から成人まで)

- 評価** 発達検査各種、心理検査各種、言語機能検査各種、行動評価、認知機能検査
- 訓練・指導** 個別指導(言語機能促進訓練、発達促進訓練、認知機能促進訓練、コミュニケーション機能改善訓練、拡大代替手段獲得・使用訓練)、グループ指導(ソーシャルスキル獲得訓練、コミュニケーション機能拡大訓練)
- 家族支援** 家庭内での養育指導、関係者支援

発声発語障害 (対象:小児から高齢者まで)

- 評価** 構音検査、発声発語検査、鼻咽腔閉鎖機能検査(ナゾメーター、内視鏡)、言語発達検査、精神発達検査、聴力検査、吃音に関わる諸検査
- 訓練・指導** 発声発語器の機能回復訓練、構音訓練、音声訓練、拡大代替手段獲得・使用訓練、吃音に対する訓練(遊戯療法、心理療法、発話訓練など)
- 家族支援** 家族の援助、吃音における家族指導

摂食・嚥下障害 (対象:主として成人、特に高齢者)

- 評価** 音声・構音機能検査、嚥下機能検査各種、嚥下造影検査(検査実施は医師)
- 訓練・指導** 間接訓練(基礎訓練)、直接訓練(摂食訓練)、代替栄養法の指導、発声発語器機能の改善訓練
- 家族支援** 家庭における安全で適切な栄養摂取方法について、摂食介助方法、留意点などに関する指導

専門診療

目白大学クリニックには下記のような専門外来があり、各領域のエキスパートが治療に当たっています。

●小児耳鼻咽喉科診療(小児聴聴外来)

小児聴聴の早期発見・療育に力を入れます。新生児聴覚スクリーニング後の聴覚の精密検査(聴性脳幹反応検査(ABR)や聴性定常反応検査(ASSR)、条件付き反応聴力検査(COR)など)により確定診断を行い、その後の聴覚管理を行います。また最先端医療機器である光トポグラフィーにより脳の活動レベルを検査します。



小児聴聴のための専用の検査室も設けました。

●めまい・耳鳴り・難聴診療(めまい外来)

めまい・平衡障害、乗り物酔いなどに対応します。小児におけるバランス異常、起立性調節障害、心因性めまい、小児良性発作性めまいなどは耳鼻科系疾患に起因しています。成人の原因はメニエール病など耳鼻科系疾患から脳に原因があるものまで多様です。当科では、電気揺籃器(ENG)、重心動揺検査、赤外線聴覚検査などによる的確な診断後、カクテル療法(内服治療)や水性ステロイド剤腔室内注入療法なども積極的にを行います。



電気揺籃器(ENG)

●いびき・睡眠時無呼吸診療(いびき外来)

慢性的な鼻閉、肥満などと共にいびき・睡眠時無呼吸を起こす方が年齢を問わず増加しています。小児では夜尿、成長障害、集中力低下などに結びつくことがあります。成人では仕事上の居眠りなど社会問題となります。当科では、夜間睡眠時モニターによるご自宅での睡眠状態の検査などを行います。アルゴンプラズマ凝固治療、マウスピース治療、C-PAP治療など、症状に応じた特殊治療を選択します。



アルゴンプラズマ凝固治療

●中耳炎診療(中耳炎外来)

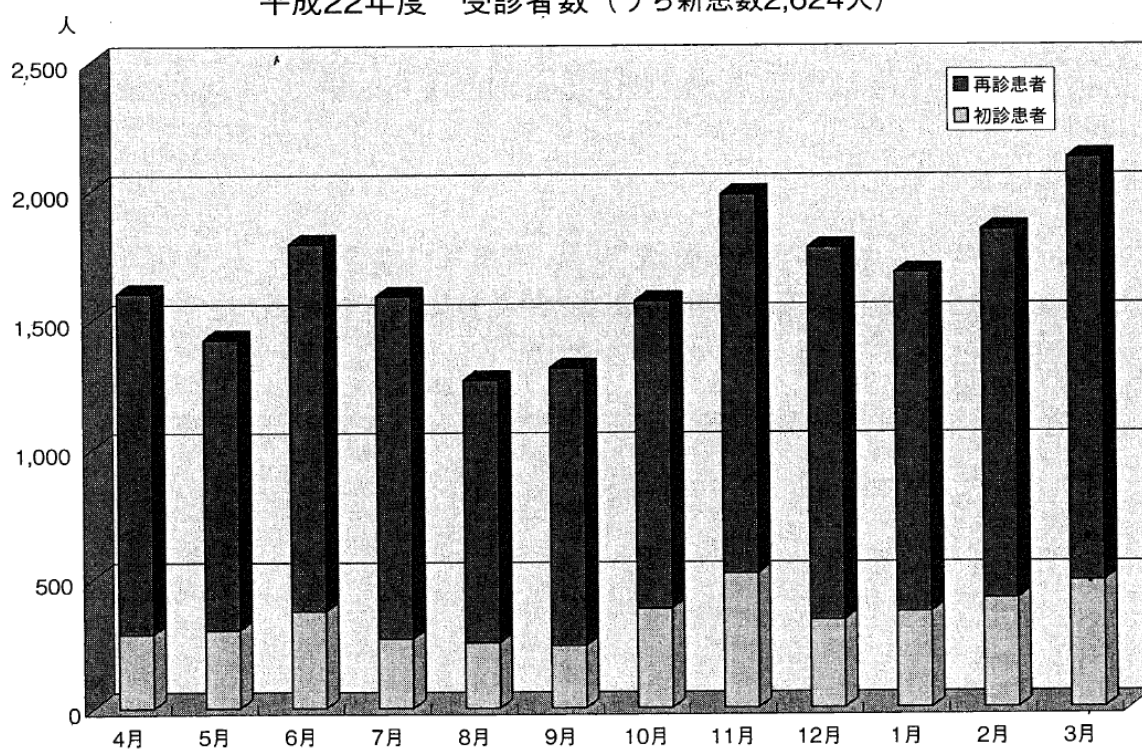
中耳炎は小児から大人まで様々な種類があります。難治性の中耳炎では手術治療を行なっています。



受診者数 推移 (2010年度)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2010	初診患者	285	300	374	267	251	239	383	518	338	368	420	486
	再診患者	1,320	1,126	1,423	1,326	1,014	1,073	1,190	1,467	1,440	1,312	1,426	1,639
	合 計	1,605	1,426	1,797	1,593	1,265	1,312	1,573	1,985	1,778	1,680	1,846	2,125

平成22年度 受診者数 (うち新患数2,624人)

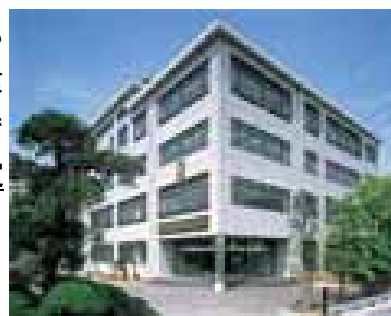


目白大学クリニック
年間報告 より

東武医学技術専門学校

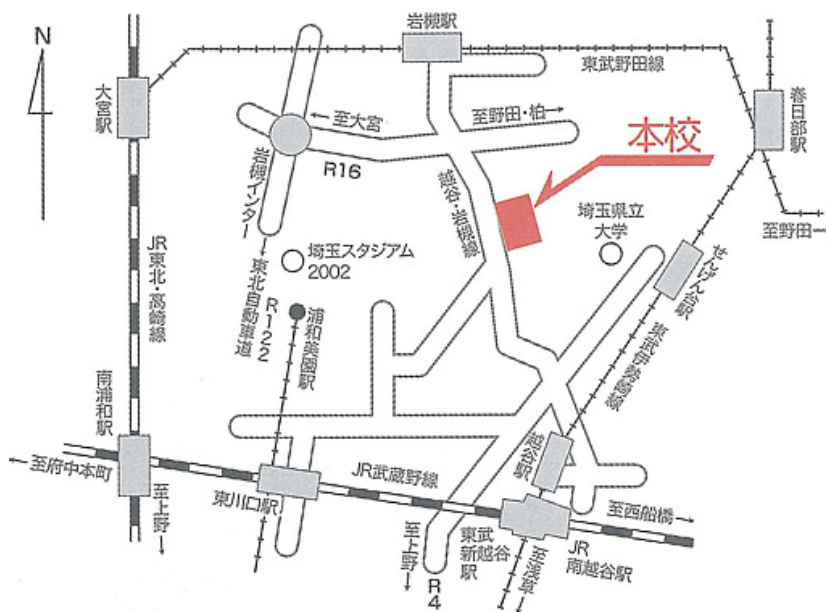
1970年埼玉県岩槻市(現:さいたま市岩槻区)郊外に臨床検査技師養成校として開校した臨床検査技師3年制専門学校である。臨床検査技師養成校としては、全国で9番目に開学した臨床検査技師専門学校で、国家試験合格率、就職率ともに高い実績と伝統を兼ね備え、これまでに2,434名(2010年3月31日現在)の臨床検査技師、医療スタッフを医療界に輩出している。

開学以来、臨床検査技師教育を主とし、医療機関に人材を送り出し人材育成という観点で社会貢献に努めてきており、卒業生は、臨床検査技師として医療現場の最前線で日々患者様のために各種臨床検査業務に従事している。臨床検査科3年間の課程の中では、臨床検査技師として医学知識の習得や検査技術の向上はもちろんのこと、臨床検査技師国家試験対策をはじめ健康食品管理士、毒物劇物取扱者などの資格取得にも力を注いでいる。**臨床検査科(昼間3年制)の一学年あたりの募集定員は80名**となっている。



所在地:埼玉県さいたま市岩槻区飯塚50番地

アクセス:(岩槻駅より)朝日バス「越谷駅西口」行
または、「水上公園」行に乗車約10分
(越谷駅より)朝日バス「岩槻駅」行に乗車約25分



※通学時・イベント時には、岩槻駅よりスクールバスを運行しています。

さいたま市都市計画マスタープランの改定について 概要

1. 平成 21・22 年度調査の検討概要

検討経緯と検討内容

《平成 21 年度》

国において、今後の都市のあり方として「集約型都市構造」のイメージのもと、「エコ・コンパクトシティ」の考え方が出されている中で、さいたま市においても、コンパクトなまちづくりを目指す必要があるのか、必要性があるとすれば、さいたま市のコンパクトなまちづくりとはどのようなものかを検討

《平成 22 年度》

平成 21 年度調査結果を踏まえ、さいたま市が目指す都市づくりの目標を明らかにし、将来都市構造のあり方を検討した上で、さいたま市における持続可能なまちづくりに向けた今後の都市計画のあり方を整理

国：今後の都市のあり方として、集約型都市構造のイメージのもと、「エコ・コンパクトシティ」を提示
県：「まちづくり埼玉プラン」を策定

H21
コンパクトなまちづくりの方向性を整理

H22
持続可能なまちづくりに向けた今後の都市計画のあり方検討
今年度の都市計画マスタープランの改定に反映

持続可能なまちづくりの方向性

社会、経済、環境の3つの視点からの持続可能なまちづくりが重要であるとの認識の下、さいたま市としての持続可能なまちづくりの考え方及びまちづくりの方向性を検討

《持続可能なまちづくりの考え方》

無秩序な市街地の拡大抑制と緑など快適な都市空間の創出

人口が増加している今のうちに準備すべき高齢社会への備え

既存のストックを活かし、機能的で活力ある都市構造を目指すもの

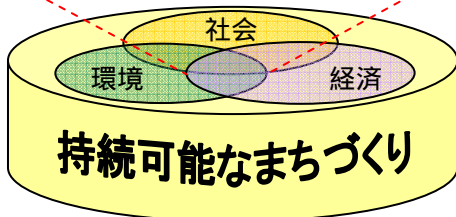
《持続可能なまちづくりの方向性》

超高齢社会においても、誰もが安心して快適に暮らせるまちづくり

多様な住宅・住環境の選択肢を提供できるまちづくり

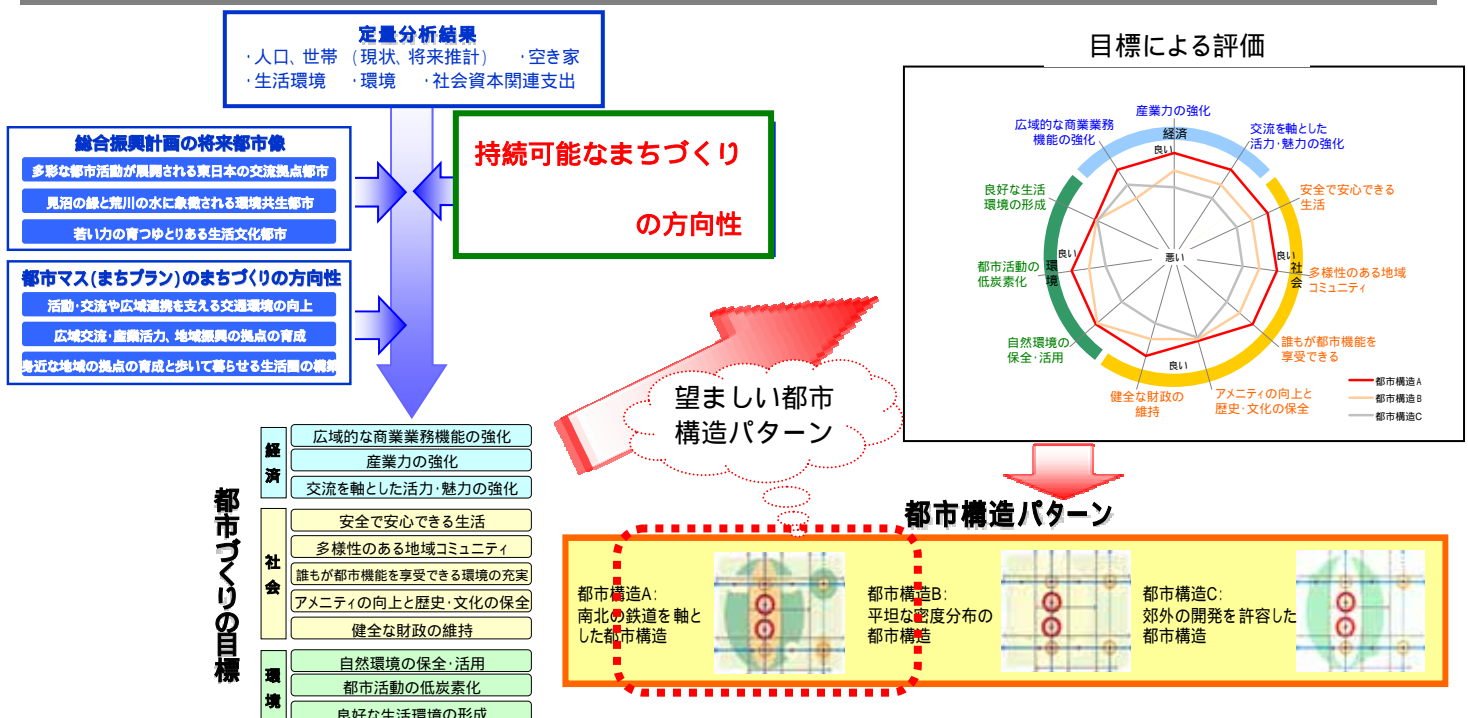
都市の活力向上となる産業の活性化と人口減少時代における健全な財政の維持

『社会』『経済』『環境』の3つの視点からの持続可能なまちづくりが重要



都市づくりの目標（目指す姿）

経済、社会、環境の3つの観点から、都市づくりの目標を設定
都市づくりの目標を実現するための都市構造パターンを土地利用、交通網を考慮して3ケース設定し比較検討 『南北の鉄道を軸とした都市構造』を望ましい都市構造パターンとして評価

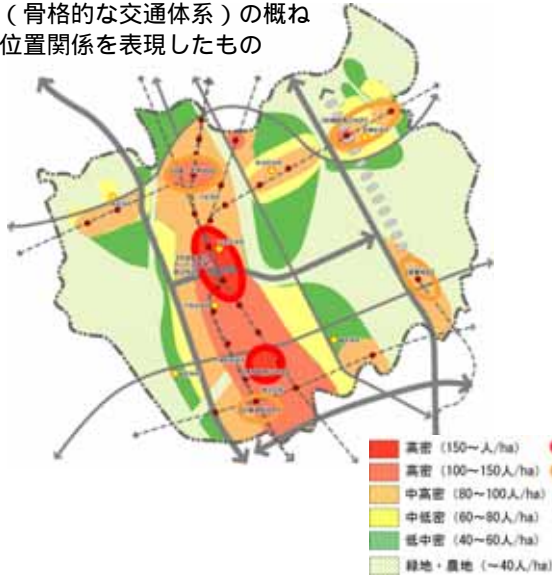


将来都市構造のあり方検討

望ましい都市構造パターンをもとに、拠点、骨格的な交通体系、骨格的な土地利用のあり方を整理し、将来都市構造のあり方図、地域イメージ図を検討

- ・都市における土地利用（業務、居住、緑など）と交通（骨格的な交通体系）の概ねの位置関係を表現したもの

《将来都市構造のあり方図》



- ・都市構造図で示された内容に関して、地域の具体的な状況のイメージを伝えるための図（夜間人口密度、従業員人口密度など）

《地域イメージ図》



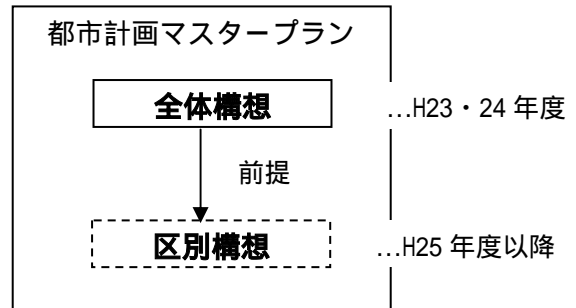
将来人口分布イメージ

2. 今年度の調査・検討

目的

平成 21、22 年度の調査結果を踏まえるとともに、現行都市計画マスタープランのあり方の評価、都市計画基礎調査等を活用した分析などを行いながら、都市計画マスタープランの改定（全体構想）（案）の検討、作成を行なう。

調査・検討の対象



調査スケジュール（平成 23、24 年度）

	平成 23 年度									平成 24 年度														
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
内 容	都市計画マスタープラン改定の方向性の検討			改定全体構想（素案）の検討及び作成						パブリックコメントの実施			市民説明会の開催			まちプラン市民会議意見聴取			改定全体構想（案）の作成			改定都市計画マスタープラン全体構想（案）の作成		